

## 2020年アートクリティック活動の報告

アートクリティック

酒井正志、玉崎紀子、服部厚子

### 2020年アートクリティック活動の報告

2020年アートクリティックにおいて報告された観劇演目のリストを以下に、ほぼ観劇の日付順に記載する。ただし、劇場観劇を先ず記し、その後METや、National Theatre、シネマ歌舞伎など劇場の中継録画の映画館上映、映画などを日付順に記す。特に6ヶ月分を記載した10月例会では単純な日付順とは異なる。なお、2020年はコロナ感染拡大のために、大学が休校になった時期は文化科学研究所で毎月の例会を開くことができず、1月例会の後は休会した。が、夏休み後も感染拡大が収まる気配もないので、大学のオンライン授業に合わせ、10月から例会もzoom会議の形で開催した。当日非常勤講師として出講する服部厚子準所員に文化科学研究所から発信し、出席者をゲストとして招待してもらい、皆参加できた。

2020年1月例会 1/22(水曜日) 12:30~

1. 宝塚ライブビューイング『I AM FROM AUSTRIA 故郷は甘き調べ』(月組の千秋楽公演  
12月28日東京宝塚劇場収録 ウィーン版装置) 109 四日市シネマズ 12/28(土) 15:30~ (服部)
2. 演劇『私たちは何も知らない』(二兎社公演 永井愛作・演出) 穂の国とよはし芸術劇場・主ホール 1/13(月) 13:00~ (伊藤・服部)
3. 演劇『イヌの仇討』(こまつ座 井上ひさし作 東憲司演出 宇野誠一郎音楽 大谷亮介・彩吹真央・三田和代出演 名演例会) 日本特殊陶業市民会館ビレッジホール 1/21(火) 13:30~ (玉崎)
4. 映画『カツベン』イオンシネマズ 12/29(日) (服部)
5. 月一歌舞伎シネマ『廓文章 吉田屋』(玉三郎・仁左衛門) ミッドランドスクエア・シネマ  
1/3(金)~1/23(木) (玉崎 1/5 12:30~)

6. 映画『パラサイト 半地下の家族』(韓国映画・ポン・ジュノ監督) 伏見ミリオン座  
1/16(木) 15:00~ (伊藤)

2020年2月~9月は休会。2月から9月まで、10月のzoom会議で報告。

2020年10月例会 10/21(水曜日) 12:30~ Zoom会議

1. オペラ『リゴレット』(藤原歌劇団公演 柴田真郁指揮 松本重孝演出 須藤慎吾・笛田博昭・佐藤美枝子主演) 愛知県立芸術劇場大ホール 2/8(土) 14:00~ (塹江・玉崎)

2. コンサート『Haydn Philharmonie』(モーツアルト & ハイドン) (ラッハナー・アンサンブル協会) 東郷町コンサートホール レ・マーニ「Le Mani」 2/11(火・祝) 14:00~ (玉崎・玉崎紫)

3. 演劇『ヘンリー 8 世』(彩の国 Shakespeare シリーズ 第35弾公演 吉田鋼太郎・演出 阿部寛主演) 彩の国さいたま芸術劇場・大ホール 2/17(月) 13:00~ (伊藤)

4. 歌舞伎『錦秋御園座歌舞伎』御園座 昼の部 (A 日程) 『鐘が岬』『連獅子』 10/6(火) 12:00~ (塹江)

5. シネマ歌舞伎リクエスト上映 歌舞伎 NEXT『阿弔流為 アテルイ』(松竹歌舞伎創業120周年記念 新橋演舞場7月歌舞伎 2015年上演 中島かずき作・いのうえひでのり演出 市川染五郎・中村勘九郎・中村七之助主演) 三好 MOVIX 2/16(日) (玉崎・玉崎紫 2/16 10:10~)

6. MET Live Viewing 『蝶々夫人』 ミッドランドスクエア・シネマ 2/7(金)~2/13(木) 11:00~ (塹江 2/12)

7. 新作歌舞伎シネマ『風の谷のナウシカ』(G2 演出・宮崎駿原作 尾上菊之助・中村七之助 前編) 三好 MOVIX 2/16(日) (玉崎・玉崎紫 2/16 14:00~)

8. National Theatre Live 『リーマン・トリロジー』(The Lehman Trilogy, Sam Mendes 演出) TOHO シネマズ赤池 2/14(金)~2/20(木) (玉崎 2/15 11:40~)

9. National Theatre Live 『スモール・アイランド』(Small Island) (ルーファス・ノリス演出) TOHO シネマズ赤池 6/14(土) 12:40~ (伊藤・服部 6/18)

10. MET Live Viewing 『ポーギーとベス』 (Porgy and Bess by G. Gershwin) ミッドランドスクエア・シネマ 6/28(日) 11:15～ (伊藤・玉崎 6/30、塹江 6/26 11:00～)
11. MET Live Viewing 『アグリッピーナ』 ミッドランドスクエア・シネマ 7/3(金)～7/9(木) 11:00～ (塹江 7/4、服部 7/5)
12. MET Live Viewing 『さまよえるオランダ人』 ミッドランドスクエア・シネマ 7/10(金) 11:00～ (塹江)
13. National Theatre Live 『夏の夜の夢』 (A Midsummer Night's Dream Nicholas Hytner 演出) TOHO シネマズ赤池 7/14(火) 11:55～ (伊藤、服部 NT at Home)
14. シネマ歌舞伎・再演 『連獅子』と『らくだ』 ミッドランドスクエア・シネマ 8/23(月) 10:20～ (伊藤)
15. シネマ歌舞伎・再演 『怪談牡丹燈籠』 ミッドランドスクエア・シネマ 9/13(土) 9:40～ (伊藤)
16. National Theatre Live 『プレゼント・ラーフター』 (Present Laughter Noel Coward 作 Matthew Warchus 演出) TOHO シネマズ赤池 10/9(金)～10/15(木) 12:10～ (伊藤 10/12、服部 10/10、玉崎 10/11)
17. National Theatre Live at Home 『ジェイン・エア』 (Jane Eyre Charlotte Bronte 作・Sally Cookson 演出・Madeleine Worrall 主演) 4/7(火)～4/16(木) (玉崎 4/15、服部 4/16)
18. National Theatre Live at Home 『宝島』 (Treasure Island R.L.Stevenson 作・Polly Findlay 演出・Patsy Ferran 主演) Streaming 4/17(金)～4/23(木) [NTL 2015 の再映] (玉崎 4/22)
19. Online Live 『さるすべり ～コロナノコロ』 (渡辺えり作・演出 渡辺えり&木野花・二人芝居) (座高円寺) [配信日] 8/8(土) 17:00～ (服部)
20. Online Live 『ベイジルタウンの女神』 (ケラリーノ・サンドロヴィッチ作・演出 ケムリ研究室 No.1) 世田谷パブリックシアター 9/22(火) 18:00～ (服部)

21. 映画『キャッツ』(Cats, Andrew Lloyd-Webber 音楽 Lee Hall & Tom Hooper 台本 Andy Blankenbuehler 振付 日字幕版) [1981 London 初演舞台に基づく実写映画化] TOHO シネマズ赤池 1/24(金) 9:40, 15:30 ~ (玉崎 1/25 15:30 ~)

22. 映画『ダウントン・アビー』(Downton Abbey) TOHO シネマズ赤池 1/30(木) 14:55 ~ (伊藤)

23. 映画『ストーリー・オブ・マイ・ライフ 私の若草物語』(Little Women, 2019) TOHO シネマズ赤池 6/27(土) ~ (玉崎・玉崎紫)

24. 映画『ドクター・ドリトル』(Dolittle) TOHO シネマズ赤池 6/27(土) ~ (玉崎・玉崎紫)

25. 映画『ブラド美術館』(World of Wonder) ミッドランドスクエア・シネマ 7/30(木) ~ 8/5(水) 16:45 ~ (塹江 7/30 11:30 ~、伊藤 8/3 16:40 ~)

26. 映画『パバロッチィ』 ミッドランドスクエア・シネマ 2 9/4(金) (塹江 9:55 ~、伊藤 13:20 ~)

27. 映画『シチリアーノ 裏切りの美学』(マルコ・ベロッキオ監督) 名演小劇場 9/27(日) 12:35 ~ (伊藤)

2020年11月例会 10/25(水曜日) 13:00 ~ Zoom 会議

1. 演劇『みつばち共和国』(作・演出:セリーヌ・シェフェール) 静岡県芸術劇場・舞台芸術公園・屋内小ホール「楢円堂」 10/24(土) 15:30 ~ (伊藤)

2. 演劇『かもめ』第7劇場(四日市市) 三重県文化会館小ホール 10/31(土) 14:00 ~ (服部)

3. 映画『スパイの妻』(黒沢清監督 劇場版) ミッドランドスクエア・シネマ 10/28(水) 11:25 ~ (伊藤 10/28、服部 10/31)

4. 映画『シラノ・ド・ベルジュラックに会いたい』(監督・脚本:アレクシス・ミシャリク) 伏見ミリオン 11/13(金) ~ 11/19(木) 11:45 ~ (伊藤 11/17、服部 11/14)

5. 映画『陽のあたる場所』(1951) 名東文化小劇場 11/19(木) 11:00 ~ (塹江)

6. 映画『浅田家!』(中野量太監督、浅田政志原案、脚本 中野量太・菅野友恵、二宮和也・妻夫木聡出演) 11/22(日) (服部)

2020年12月例会 12/23(水曜日) 13:00~ Zoom 会議

1. 演奏会『グリンカとその周辺』(愛知ロシア音楽研究会) ザ・コンサートホール 12/4(金) 18:30~ (服部)

2. National Theatre Live 『シラノ・ベルジュラック』(Cyrano de Bergerac) TOHO シネマズ赤池 12/4(金)~12/10(木) 12:25~ (伊藤・玉崎・玉崎紫)

3. 映画『ノッティングヒルの洋菓子店』(Love Sara [2020] Eliza Shroeder 監督 Celia Imrie 主演 イギリス映画) MOVIX 三好 12/12(土) 10:20~ (玉崎・玉崎紫)

4. 映画『アーニャはきっと来る』(Waiting for Anya [2019] 英・ベルギー合作 Michael Morpurgo 原作 Ben Cookson 監督 Noah Schnapp 主演) MOVIX 三好 12/12(土) 13:30~ (玉崎・玉崎紫)

## ． 観劇短評選

### (1) *Treasure Island* NT at Home

4/22 (水) に National Theatre at Home (streaming) の *Treasure Island* 『宝島』 (原作小説 1881 年刊) を見た。2014 年 12/11 初演の舞台 *Treasure Island* (National 劇場の Olivier) は、National Theatre Live 2015 でも、またその後の NTL 再演 (名演小劇場) でも、子供向きと思ひ見なかった。だが、実は批評家に絶賛された舞台で、観劇の幸福を味わった。巧みに工夫された舞台と魅力的な若い主演女優に感嘆させられ、舞台ならではの優れた演出の数々に感動した。毎年クリスマスには、イギリス名物の子供のための芝居が (Christmas Pantomime) 国中で上演される。*Treasure Island* はその人気演目の一つだが、この舞台はクリスマスのパント用低料金ながら、National Theatre だけに、単なる新しい趣向を超えた原作とは異なる新解釈の演出で大人も満足の芸術性の高い公演であった<sup>[1]</sup>。

今回の演出家 Polly Findlay のプロダクションは、まず美術担当の Lizzie Clachan の優れた装置デザインに驚かされた。何よりも Olivier 劇場の舞台機構を存分に利用し、大舞台全面に広がる迫力ある帆船の装置が見事であった。その上、船の細部までもリアルに見える工夫を凝らした装置を、魔法のように次々と出現させて観客を驚嘆させた。2 幕の宝島では逆に、リアルな装置ではない。熱帯のもや (熱気) が垂れ込める仕掛けや、ジャングルの樹木のざわざわ言う奇妙な音に脅え、熱帯の酷暑や悪臭に苦しむ人物、俳優の夏服や海賊姿への変化、後には幽霊の出現など様々な工夫で、異国的で奇妙な島 (gothic) を表現した。1 幕の帆船のセットを回転・変化させ、樹木は船の索網を利用し映像で森に見せ、帆船の地下を照明で色を変え砂浜の下のトンネルや迷路そして洞窟に、というように巧みに変貌させて、観客の想像力を喚起する舞台であった。大人も子供達も、この目を奪い想像力を刺激する世界に入りこみ、舞台を楽しんだのは間違いはない。

1 幕の Bristol の波止場の場面が終わると、舞台が回転して帆船の甲板となる。大勢の船員達が索網や縄梯子を張り艦装していく。甲板から空まで高く伸びる帆柱を立て、風を孕む帆を張り、床面の中心にある舵輪の取手を大勢で回す。その周りに 4 本の縄梯子が舞台天井まで半円形を形作り、その外側には索網が張られる。そして舞台いっぱい帆を張った壮麗な帆船が現れる (音楽が高まり帆船完成で歓声)。少し甲板の舞台が動く、甲板の背後に 3 階建ての船の内部がセリ上がってくる。2、3 階には船室、そして甲板下の厨房や林檎樽のある食料貯蔵室という変化に富んだ船の内部が観客席から見え、回転し上下左右する舞台機構により、素早く場面転換する。水夫達の錨を上げながら歌うはやし歌 shanty が響く中、帆船が出航し、個性的な乗組員達のドラマが始まる。さらに視覚以外に、音響や照明が荒々しい嵐や大海を実感させ迫力ある舞台となる。イギリスの日常から離れた刺激的な航海のロマンと南国の宝島での危険な世界に観客を導く。

語りと主人公 Jim を演じるパツィ・フェラン (Patsy Ferran) は 1989 年生れで RADA 卒すぐ

で、2014年初演時、20代前半の新鋭である<sup>[2]</sup>。若いFerranは、小柄でスリムな体格の上に敏捷な動きでJim少年にぴったりだった。利発な生き生きとした話しぶりや冒険の数々に立ち向かう果敢な行動で観客の心を鷲掴みにする。彼女の機敏な動きと演技 action は、映画や舞台に人気の movement director, Jack Murphy の指導を得て、さらに冒険物語の主人公らしい活気と魅力を備え、パントの人気者ハーレクインなどの道化を受け継ぐ巧みな動きもあった<sup>[3]</sup>。とりわけ Ferran の天賦の才もあろうが、彼女は常に風の中を舞うように軽々と動き、目を見張らせた。

この舞台の脚本 (Bryony Lavery 作) では、主人公 (小説で Jim Hawkins) の gender が変えられ、舞台の主人公 Jemima は 13, 4 歳の少女で、Bristol 海峡の入江で船宿を営む祖母 (Grandma : Gillian Hanna) を手伝い、亡父の古い半ズボンをはき、少年の恰好で働く (Jemima, Jem と呼ぶのは祖母のみで、彼女は Jim Hawkins と名乗る。従って Jem の名は Jim と人々に呼ばれる。本論では必要な場合のみ Jem にする)。しかし、始め少年と信じて見たほど、少年っぽい少女 Jem を主人公にして原作に新解釈を提示している。ある晩、乱暴で恐ろしい老水夫 Bill Bones が宿に来て、冒険が始まる。Bones は来るなり、宿で働く Jim に、「be you boy, or be you girl?」と尋ねる。“That would be my business” と言い返す Jim の台詞に、早速彼女の気概が示される。1 本足の冷酷な海賊を見張ってくれと彼女に頼んだ Bones だが、結局 2 人目の海賊が地図を渡さないなら殺すと予告に来た晩、老水夫は心臓発作で死んでしまう。老女ながらしっかり者の祖母はまず未払いの宿賃をもらわなきゃと言い、Jim が Bones の蓋付きの大型の船員用木箱を開け、様々な遺品の下に金貨の袋と宝島の地図を見つける。それは伝説的 Captain Flint が財宝を隠した孤島の地図である。その夜、この地図を狙って海賊達が来るが、湾岸警備隊が海賊達を追い散らす。さらに、医師 (Dr. Livesey : Helena Lymbery) が地主 (Squire Trelawney : Nick Fletcher) と共に宿の pub にやって来る。宝島の地図を見て、地主は財宝探しに夢中になり、即座に船を用意し船主となり、宝島への航海に出ると決める。次に医者が船医となることを承知し、地主の雇った船長と共に、Jim は、憧れの航海と宝島を探す冒険へと踏み出す。出航の朝、Jim は帆船の高い甲板に立ち、「My ship, Hispanola」と呼びかける。この場面の Jim (narrator) は、両手を広げ、韻律を踏む詩を暗誦しているようだ。この台詞は美しい帆船に対する彼女の感嘆と彼女の航海に対する興奮を伝え、観客も彼女の熱中に引き込まれる。

この初日の朝、船長 (Captain Smollett : Paul Dodds) は、ろくでもない船員を集めた船主 (地主) を非難し、さらに「宝島が目的地とは船長の私は知らない。だが、船員が宝の話ばかり。これでは指揮がとれない」と、今にも船長を辞めたい様子。対して富裕な地主で自分がヘッドと思う船主は、船長に腹をたてる始末で、船医が必死に二人を宥める。そこへ顔を出しテーブルの海図をとりあげた Jim に、船長は「海図は大人の仕事だ。girl は下の厨房だ」と追い払う。「girl だって！こんなことなら祖母の宿屋で働いていたほうが良かったです。I hate the captain」と子供扱いと女性差別に怒りながら、厨房へ下りていく。すると厨房の片隅に色鮮やかな鸚鵡 (パペット) がいて “pieces of eight” (8 銀貨) と繰り返すので、Jim は鸚鵡に何か喋らせようと夢中になる。Nicholas Hytner 芸術監督のもとに演出を学び、名舞台 War Horse を手伝った Polly Findley だけに、精巧な puppet

が生きているような動きを見せる (Ben Thompson が puppet を操る。声は地主役の Nick Fletcher の腹話術)<sup>[4]</sup>。厨房に入ってきた Long John Silver (Arthur Darvill)<sup>[5]</sup> が、鸚鵡の名前は Captain Flint と教え、続いて自己紹介をするとすぐ、長靴をはいた片足をナイフで突き刺し、彼女を仰天させる。悪夢に出てくる一本足の海賊だと恐怖にかられ、見つけたフォークで防御の体制をとる。すると Silver は、「戦おうというのかい？ 僕が後ろを向いた時、背中を突き刺すんだね」、と言って平然と後ろ向きになる。悪夢とは違い、全然怖くないと気づく。次に、「一本足の船乗りなんて大勢いるんだ」と、彼女を安堵させる。料理番の Silver は、早速おいしいシチューを味見させ、食欲旺盛な少女 Jim を喜ばせ、料理を手伝わせ、“smart as paint”とお世辞を言い、肩を組み、仲間扱いする。航海に憧れ、海図も読みたいのに船長はさせてくれなかったと言うと、「それで “angry and miserable” なんだ」と応える彼を、おばあちゃんよりも気持ちを分かってくれると思う。Silver は頼りになる唯一の大人で、「とても付き合い易くて、面白い人だ」と Jim は好意をもつ。一方で、一本足の海賊こそ最も危険と恐れた Bones も忘れられない。だが Silver は Jim にも “pretty one” とか unusual などとお世辞を言い、船長始め紳士階級にも愛想よく人好きのする人物である。Silver 役の Arthur Darvill は映画 *Pirates of the Caribbean* (2003) の Johnny Depp の Captain Sparrow を模倣して (2 幕の海賊として眼の縁の黒いマスカラや派手な色や柄の長い上着、喋り方の癖など)、海賊ながら comic で魅力的という役柄を演じている。原作小説は、元々「船のコック」(The Sea Cook) という題名で連載され、舞台でも Long John Silver と Jim の人間関係がドラマの要となる<sup>[6]</sup>。

Long John Silver の人物への疑念は、嵐の晩に消え去ったと Jim は語る。その嵐の間、舞台装置はそのまま、荒々しい音楽を使い激しい風雨が表現され、そして照明による稲妻が走る。嵐の中、大波に流され甲板から落ちそうだった Jim を Long John が両腕で抱き止め助けてくれた。彼の言葉が嵐を導いて動かすようで静かに穏やかにしたと彼女は語る。嵐の後がこの舞台で最も印象的な場面である。

夜の甲板で、きらめく満天の星空のもと、John Silver が彼女に星や星座を教える。まず彼は幾つかの大きな星を教え、次に北極星の見つけ方を説明する。最大のいつも動かない星が北極星だと教えられ、じゃあ Grandma のようだと言っていると Jim が言うと、二人の間では北極星を Grandma と呼ぼうと Silver は言う。彼女の祖母への愛情を理解し、尊重する。次に緯度から自分の船の位置を自分の拳を使って測れるのだと教える。Jim は Silver にすっかり心を許し、最高の友達と思う。Silver との間に親密な心の交流を感じるのだ。本来、航海に憧れて、この船に乗った Jim だけに、この Long John の星と船の話は最も知りたかったことである。一面の夜の闇の中に星が輝く大空を見上げ、Jim は好奇心一杯に、Silver の指さす星を眺め、緯度を測り、彼の言葉に感心する。彼女の動きと表情が純粹無垢な少女らしく愛らしい。John Silver の Darvill は原作の 50 歳ぐらいよりずっと若い (初演時 32 歳)。一本足とは言え、スリムで姿がいい<sup>[6]</sup>。これは Jim の gender が変わったゆえの驚くべき場面で、観客もこの二人に引き込まれ、恋の雰囲気を感じ、ワクワクする。

ところが、航海の目的地、宝島の近くまで来たある晩、Long John Silver は、船長への反乱に船乗り達を唆すのだ。貯蔵室の林檎を食べに来て林檎の樽の底に医師の隠した地図を見つけた Jim は、



樽の中に潜っていて Silver の話を聞いてしまう。Jim は、他人が来る度、顔を出したり引っ込めたりで、ハラハラさせ comic である（原作では隠れるだけだが、舞台では彼女の timing が素晴らしいので comedy になる）。宝島の海賊船 Walrus の船員だった仲間を部下にした Silver は、この帆船 Hispanola を乗っ取り、地図を奪い、宝島の財宝を略奪する計画だ。さらに、Silver は海賊以外の乗組員も誘うが、仲間に加わらず彼に従わない者を海に溺れさせると命じ、非情な冷酷さを示す。彼の下に集まった船員は船長側より多数だと Silver は満足。その時、甲板から「陸だ。島が見えた」と声がして、皆甲板へ走る。Jim は林檎を片手に、もう一方に地図をもち、すぐに船長室に駆けつけ、3 人に反乱を伝える。すると船長は多数派の反乱者を陸地にあげ、味方（少人数）は至急英国へ帰ろうと提案。だが地主と Jim は宝を求めて来たのだと反論する。医師だけは、海賊と戦ってまで宝物は望まないと表明する。船主 Squire が “My Friend” だった John Silver が反乱とはと嘆息すると、Jim は “I hate Silver. False friend” という（comic なかけあい）。恋も友情も裏切った彼を憎むのは、Silver への思いがあるからだ。船長は島への上陸用 jolly boat に反乱者達を乗せ、自分たちは船に残ろうとする。これから先、1 幕終わりまでは、この舞台だけの創造だが、スリルとサスペンスの連続が続き、見ごたえのある場面である。Silver が昔島に上陸したはずと Jim が口を滑らすと、「秘密がバレた。反乱だ！」と Silver が叫び、海賊達はさっと剣を閃かせ、戦いを始める。味方の一人ひとりに地図を寄越せと要求して剣で殺そうとする（Fighting は旨くないと批評あり）。Silver に攻撃された地主が危ないと見た Jim は、「私が地図を持っている」と叫び地図を見せる。すると地図を鸚鵡 Flint に奪われる。地図を嘴にくわえた鸚鵡が空高く飛び、Jim は頭上高くのびる縄梯子を登っていく。危険でスリル満点。地図を手にしそうな彼女を見て、Silver は「彼女を撃て！」と部下に命令する。友情も見せかけ、まやかしかった。Jim は落下し海に沈む。（1 幕終）

Jim は、海を泳いで宝島に上陸する。味方を探していると、怪物かと思える Ben Gunn が砂から這い出てきて、二人とも驚愕する。二人の出会いと頓珍漢な会話は comedy 一色である。Jim は、精神的成長が止まり人間不信の Ben Gunn と友達になり、砦の味方の陣地へ連れて行く。次に、Hispanola 号を海賊から取り戻そうと Jim は独りで宝島の沖合に停泊する帆船に乗り込む。舵手の Israel Hands 以外、海賊はいないのを幸い、船を陸地へ向けよと命ずる。だが英語が分からないふりをする Hands と Jim との口論の間に（comedy）、Hands はパイプに火をつけ、マッチを火薬壘に捨て爆発。爆発で彼は消滅（観客は笑って喜ぶ）。Jim は独りで帆をあげ操縦して島に戻る。しかし夜中、味方と思った陣地で彼女は Silver に捕まる。Jim のたて続く冒険に観客は夢中になり、冒険の危険と隣り合わせの喜劇を大いに楽しむ。この舞台では冒険や危険な action が、動作による comic な場面を作るだけでなく、怖い危険な場面も、笑わせるやりとり（脚本の台詞）で、茶番を楽しませてくれる。

反乱組の捕虜になった Jim は、自分が鸚鵡から奪った宝島の地図を医師が渡したと Silver に知らされる。さらに Silver が策略から、医師達は自分勝手な Jim に怒ってこの陣地を去り彼女を見捨てたのだと欺く。Jim は「仕方がない、私も海賊になる」と言って、Silver の望む通り、財宝の埋蔵場所の謎解きを手伝うことにする（この舞台の Ben Gunn の手掛りは、原作小説のもの異なる）。

だが海賊達が宝探しに夢中になって地下迷路を走り回っている間に、Silver は「海賊達を殺し二人で組み、財宝を山分けしよう」と提案し（この提案は原作通り）、Jim に武器を渡して、キスマで盗む。キスマに茫然としながらも、「これに十分なほど大人じゃないし」（観客のくすくす笑い）と言い、次に Jim の心の内の葛藤が始まる。二人で山分けという誘いは、実は物欲に支配された海賊 Silver の仲間への裏切りで、誠実ではない。全てを略奪した財宝の多寡で決める Silver の物欲第一に賛成できない。財宝への欲望から、海賊になった私を祖母は憎むだろう。祖母は正当なもの（宿賃）以外、たとえ飢えても欲しがらない。誠実を貫くことが祖母の孫娘の生きる道である。Silver は財宝への欲望を満たすためには、嘘をつき、殺しと暴力、精神的裏切りを厭わない欺瞞に満ちた冷酷非情で邪な海賊である。この危機的状況において、財宝（物質）よりも人間的誠実さ（精神）が重要と Jim は認識する。Patsy Ferran は、この Jim の心の葛藤を観客に向かって真剣に語る（ここが原作にない場面）。語り（narration）なのだが、身振りを交えて表情豊かに語るのも、演劇的に興味深く、観客を納得させ、Jim は少女から成長したのだと分かる。

しかし、この舞台では、海賊 Silver の裏切りと悪辣の二面性に目が覚めた結果、Jim は「嘘つき」の Silver から預かったピストルを、地下へ降りた Silver に向け、「お前を逮捕して英国で裁判にかける」（船長達の決まり文句）と彼と対決する。ところが、両手を挙げた Silver の声に応えて、飛び下りた鸚鵡 Flint が又しても Jim の手から銃を奪い、Silver の手に落とす。その銃を Silver は Jim に向ける。この危機一髪の瞬間、“Who steals my treasure?” という幽霊の声（地主の声）が聞こえてきて、大混乱。そこへ幽霊のように Ben Gunn が出現し、この島に置き去りにされて3年間の隠者生活の間に Flint 船長の宝を掘り出し、この洞穴に隠したと言う。Ben Gunn の言葉に、宝を求める海賊達は必死に Ben Gunn を追いかけて、迷路を探し回る。結局海賊を撒いて、再び船医のもとへ戻った Ben Gunn が、船医に秘密を打ち明け、財宝の隠し洞穴を指さす。その時、Silver 達が財宝の隠し場所の煙突を上る迷路から発見した声が聞こえる。海賊達が煙突に潜って宝を取ろうとして、財宝で埋まった洞穴全体が揺れ始め、ついに、洞穴は崩れ、多量の財宝が下の味方側がいる場所に溢れだす。その時、Jim は宝物に埋まり死んだ Silver を見る。Jim の “Long John!”、さらに “Silver!” と叫ぶ悲痛な声。これは脚本にも無い場面と台詞だが、この1声は Jim の Silver に対する愛憎半ばする感情が良く表れていて、印象的。様々な冒険に勇敢に立ち向かった彼女は、身体的にも精神的にも成長したのだ。

宝探しは大人の男の仕事と言われたが、子供扱いされた Jim が、林檎樽の中から地図を見つけ、次に鸚鵡から地図を取り返し、宝島でも地図を読んで宝の埋蔵場所の謎解きをする、宝探しの全ての冒険に活躍する。この舞台の Jim はこの航海で敏捷な動きと利発な判断で、様々な逆転の要因を作り、身体を使う冒険を大人の誰よりも鮮やかにこなす。舞台は少女 Jim の賞賛である。Stevenson の小説では冒険によって成長する Jim が賞賛されるが、この舞台では gender を変えて少女が果敢に行動し賢明な判断もする大人に成長する。

この舞台では Jim の他に、原作小説の男性が gender を変え、女優が演じる個性的な女性船乗り達なども登場する。ほかに、宿屋を経営する父がいなくて祖母がいる。原作小説では男性医師であるが、

舞台では女優 Helena LyMBERY が演じる女性医師 Helen Livesey も注目すべきである<sup>[7]</sup>。色白で小柄、長い赤毛の髪という容姿の上、宝島ではシャツの上の赤いチョッキと臙脂色のズボン姿の女性医師は、一貫して少年風ズボン姿の Jim より、見た目ははるかに女性らしい。だが決して女らしい性格や人柄ではなく、大抵、「先生」(Doctor) と呼ばれるように、医師としての特性が重要である。原作の男性医師と同様優れた知性を持ち、言葉は明快で、理性的に正しい判断をして、人々に権威をもって正しい行動を教える。Jim を心配する祖母に、“girls need adventures, too” と言い、冒険に出すことを勧め、その代わりに私が守りますと誓い、実際、母親代わりに Jim を教え導く。だが、Jim が行方不明で、溺死かと思われた時、宝島への熱中に染まり Jim の安全を忘れたことを恥じ、宝より人間の命が大切なのに、死で贖うのも当然と言う。これは女性らしい優しさだけではなく、生命を重視する医師故の倫理観から来た人間愛である。宝島上陸以降、しばしば医師の知性と技術を使い、皆を導き助ける。まず、孤島で Silver 率いる海賊に捕らえられた時、医者 の 鞆 に あった 銃 で、皆の手銃と足枷を外し、海賊の陣地から逃亡させた。次に女性医師の優しさ、誠実と知性に人間への信頼を取り戻した Ben Gunn は、Flint 船長の財宝を自分の洞窟に隠したという秘密を、「彼女」に打ち明けるのだ。すでに反乱勃発以来、海賊と戦ってまで宝物を望まないという信念を明らかにしていた女医師は、宝物のための殺し合いの暴力を避け、平和を重視する。生命を重視する医者 の 立場 から、これ以上死者を出すべきでないと考え、海賊に地図を渡すという決断をし、帰国への道を開く。その代わりに戦わないで生命を重視する女性医師はその分、勇敢な冒険を続ける Jim と比べ、魅力に乏しい。また女性らしい容姿を持ち、医者 の 倫理観 と 重なる 女性らしい優しさや生命の重視は、女性と差別されることもなく、医師として誠実に生きることが、人間として誠実に生きる道と示す。Jim のように男性を超える活躍をする必要はない。

しかし Jim は航海の冒険や海賊の財宝に憧れた少女から変わる。海賊の財宝にロマンを感じ、財宝を探し求め航海に出たのに、始め親友と思った魅力的な Silver に裏切られ、Silver が物欲にかられた残虐な殺し屋で欺瞞の悪漢と彼の本性を知ってしまったため、欲望の醜さを知る。それゆえ冒険の終わりに、身体的力や武力ではなく高潔な知性と優しさによって危険を避けた医師を信頼することになる。ここに Jim の成長がある。イギリスに帰国して、刺激的な冒険と興奮も終わったと Jim は言う。最後に成長した Jim は財宝がまだ島にあるが、もう要らない。女性医師 Helen Livesey が誠実な行動と子供や弱い人、患者に優しいという人間愛にみちた精神的価値を教えてくれた。物質的な財宝の豊かさより、祖母の平和な家庭と祖母との人間的な関係が重要なのだと考えるに至ったのだ。

だが、この舞台では結末の場面で、一ひねりがある。無事に帰国した一同が、平和なイギリスの宿屋の暖炉(家庭の象徴)に集まり、家庭の幸福に浸っている時、最後の最後に鸚鵡 Flint の “pieces of eight” という声が聞こえ、皆一瞬恐怖にかられる。原作で、帰国後も Jim が帰国後の悪夢に出て来るという鸚鵡の声である。この声は、冒険物語の最後を締めくくる仕掛けで、再び観客にロマンと一瞬のスリルを与えて舞台は閉じる。

財宝を求めず戦いを好まない優しい資質と医師の倫理観と知性と精神力で誠実に生きる女医師、彼女と逆に危険を冒して、独りで冒険を続け、衝動的でそれ故失敗もする少女 Jim という二人の異なる

る魅力の女性を軸にして、この舞台は成功している。さらに単なる身体的冒険ではなく、Jim が女性であるがゆえの心理的葛藤を見せる、この舞台で印象的で秀逸な3つの場面が、全て原作小説には無いこの舞台だけのものであることに注目したい。満天の星がきらめく夜の甲板で、Silver と星を眺め話して親しくなる場面、空高く飛ぶ鸚鵡から地図を取り戻そうと索綱をよじ登っていく Jim、その時「彼女を撃て！」と叫ぶ Silver、最後にキスと共に Silver から二人で組もうと誘われて、彼女の全知を尽くして、真実に目覚め、真の認識に至る場面、など、すべて観客を魅惑したが原作に無いものだ。これらが、皆新しい翻案による脚本の舞台化によって、また新進女優を巧みに葛藤にゆれる娘として呈示する演出によって、素晴らしい場面を造りだしたことに感嘆する。勿論、いずれもこの舞台の驚嘆すべき優れた装置を背景にしている。厨房で少女 Jim に愛想をふりまく Silver との comic で魅力的なやりとりも忘れられないし、場面と言えないが最後の、死んだ海賊 Silver に向ける叫び、Silver の死に Jim の嘆く印象的な声も原作になく、Jim と Silver との恋を描くという新しい創造が魅力的であった。原作小説のドラマの流れを使いながら、原作にない場面を入れたこの新しい舞台はすべて演出と台本と装置の勝利である。この公演は、新鮮なドラマを観客に楽しませ、『宝島』の新しい魅力を教えてくれた刺激的な舞台だった。

#### 註

- [ 1 ] クリスマス・パント (Pantomime) 「白雪姫」など cf. ジュディとパンチ。この公演では10歳以上向きとちらしに記載で、恒例のパントと違って幼稚園や小学校低学年の観客は想定していない。また夏にも Kid's Week と呼ばれる特別な観劇の週が設定されていて、子供むけの児童文学を基にした良質な舞台があり、子供を演劇好きに育てていると感心する。
- [ 2 ] 2014年春に West End に debut するや、Blithe Spirit で新人賞 (Critic s' Circle Theatre, 2014)、冬に始まったこの『宝島』でも新人賞、Summer and Smoke で主演女優賞 (Lawrence Olivier, 2019) を受賞するという輝かしい受賞歴をもつ。
- [ 3 ] Murphy は 1989 生。他の映画や舞台ではダンス振付や演出に活躍するが、この舞台では、movement のスタッフである (fighting (邦画の殺陣のような剣の指導) は別担当者)。「身体の姿勢、歩き方や動き方が人物の人柄、性格、考え方を明らかにする」と考える Murphy は、Jim の帆船や宝島での冒険や、さらには会話場面においても、Jim にふさわしい動きを考案し、動き方を指導する [National Theatre Live の解説映像]。Murphy の助言を生かし、Polly Findley が全体を演出するとの事である。(日本でも小野田修二の staging やマイム指導が演出以上に好評である)。元来、パントには、イタリアのコメディア・デラルテの機敏な動きで笑わせる道化役が登場する伝統がある。
- [ 4 ] 舞台 War Horse (Marianne Elliott 演出・2007 初演)、映画化 (2011) 邦題は『戦火の馬』。これも児童書を翻案・舞台化したクリスマス公演 (2007 年 10/17 ~ 2018 年 2/14) という意味でパント用だが、芸術性が高く評価された。これまでで National Theatre 最高の長期公演と国内・海外巡演が続いた人気作品。
- [ 5 ] Arthur Darvill (1982 生) は、常に TV 人気番組 (連続ドラマ) で主要な役柄を演じてアイドルの人気がある。舞台では RADA 卒業後、2011 年 Shakespeare Globe 座での Doctor Faustus で Mephistopheles を演じて以降、ほぼ毎年 West End の有名劇場に出演。世界的名声を得たのは彼の musician の才能も生かした Once the Musical 出演である。2013 年 4 月、Broadway で Once の主役 Guy を演じ、その年 Once が Tony 賞の Best Musical 他 11 賞を獲得したので、Tony 賞授賞式にも出演、続くイギリス公演でも Phoenix Theatre で 2014 年 3 ~ 5 月まで同じく Guy を演じた。その後 2014 年クリスマス『宝島』だった。

- [ 6 ] 『宝島』の数多くの映画の中で、名画とされる 1934 年の Silver 役の Wallace Beery は、荒々しい、がさつな海賊 Silver を演じ、一方では Jim が心底から友情をもつのも無理のない、口がうまく愛想のよい人物を巧みに演じている (1990 年 TV 映画の Charlton Heston は原作通りの映画化だが、原作の冷酷で悪辣な、だが魅力的と演じることができず、miscast と評される)。悪党 Silver が Jim を可愛がるので、同性愛と評されるが、黒人の妻をもち 50 歳ぐらいという Silver の設定をこの舞台では無くし、原作より Silver を若くし、恋に変えた。
- [ 7 ] Helena Lyubery は、National Theatre Live では、2013 年に This House、2015 年 London Road に出演 (脇役)。しかし 『宝島』の後、2015~2017 年の TV シリーズ “ Doctor Roster ” (detective drama) で学校の校長先生役を演じているのが、『宝島』の女医師役と通じるところがある。

(玉崎紀子 記)